

144MHz

JR3PIO 関森 源治 Genji Sekimori

今月から本欄を担当することになりました。できるだけ多くの方に144MHzを身近なバンドとして、感じていただけるような内容を紹介していきたいと思います。

今回はお二人の方に、144MHzバンドについて考えていることや、楽しみ方を紹介していただきます。

最近の144MHzバンドについて?

私がこの2mバンドにのめり込んだきっかけは、1985年5月、SSBでEsによる沖縄とのQSOを経験したことでした。当時は無線人口も多く、パイル・アップも相当なもので、運良くQSOできた感激をいまだに覚えています。以降、AJDやWAJAなどのアワードを取得し、JCCやJCGにも挑戦するようになりました。

最近はこのバンドでも移動運用が盛んです。各局がアイデアを駆使して、思い思いのスタイルで移動を楽しんでいます。移動運用は、無線を楽しむ以外に、ハム仲間との交流や新人におもしろさを伝える絶好の場であると私は考えています。この数年の私は、シーズン初めと終わりにローカル仲間とともに、移動運用を兼ねたアイボールQSOを行っています。

また、モードもSSBに限らず、CW、サテライト、SSTV、EMEなどマルチ・モードでQSOを楽しむ局も増えてきました。近くでは、2m EMEにより3Y0X(Peter一世島)と日本のQSOが成立というすばらしい記録が誕生したのは、記憶に新しいところですが、世界には2m EMEでDXCCが100エンティティという猛者もおられます。

残念なのは、最近、自らCQを出す局が極端に少なくなったこと。アワードを追っている私は、CQをよく出しています。全体の局数が減っている中では、CQを自ら出して見知らぬ局からコールしてもらえるか? という楽しみは良いものだと思います。

平成の大合併はアマチュア無線の活性化につながりました。これが落ち着くと、また静かなバンドに戻ってしまうのでしょうか。QSOは相手がいなければできません。2m各局はぜひ「CQ」を出してください。また、2mに興味のある局、これから始めようとする方はぜひ2mにQRVしてください。そして少しでもぎやかなバンドになるよう期待したいと思います。 de JJ2ONH 加納義也

144MHzでARDFを楽しみませんか

ARDF(アマチュア無線方向探知競技)は、隠された5台のTX(送信機)を探索するゲームです。配られる地図にはスタート地点とゴール地点だけが示されます。TXの配置を予想し、電波を受信することにより得られる情報だけを頼りに探しますが、各TXの電波は1分間発射、4分間休止で切り替わるため、その4分の休止時間の使い方がものをいいます。先人は実に面白い仕掛けを考えたものです。

ARDFは、まさに心技体の充実を要求されるゲーム。私自身は特に心に弱点があると自覚しています。しかし、森の中に入って爽やかな汗をかき、電波の不思議さを楽しめるのは、この上ないぜいたくだとも思っています。

日本ではこれまで、144MHz FMの競技が主流でした。近年は国際ルールに合わせて、2mバンドはA2、80mバンドはA1Aの信号が使われるようになりました。2mは波長が短く、八木アンテナが受信に使用できますが、森や山による反射や、地形による電界の変化が複雑であり、正しい方向の判定がむずかしくなります。また、強い電波を受信したからTXが近いとは限らないということもあり、一筋縄ではいかないのもARDFの奥深さであると言えるでしょう。

日本でも、昨年から選手のクラス分けが男女別×年齢別に改められ、またCRSA(中国無線電運動協会)による格安な受信機が入手できるようになったこともあり、試しにやってみようという方も増えています(<http://ham-ing.net/ardf/index.htm>)。あなたも、ぜひ挑戦してみてください。

CQ MORSE CD No.1 欧文入門編 好評発売中!

144MHz

JR3PIO 関森 源治 Genji Sekimori

今月は、VK(オーストラリア)とのTEP(赤道横断伝搬)による通信について1978年以降、ご自身で経験されてきたJH4JPO 松本さんにレポートをお願いしました。スペインのEA6VQ Sampol氏のWebページ^{注1)}でも、JA-VK間のQSOについて触れられており参考になります。

TEPによるVKとの交信について

1977年ころの本誌でVK8ZCJ(後のVK8GB)がJAの信号を聞いたとの情報を得て、私にも交信できるかもしれないと思いました。年が明けて、50MHzの広島ロールコール(JA4MBM担当)にチェックインした際の情報で、144MHzでVK8GBとJH6TEW(田尻さん)が交信に成功したと聞き、さっそくその日の夜からVKのワッチを開始しました。

そして、1978年2月25日2045、VK8VVと交信に成功しました。それからはコロブスの卵と一緒に、毎晩のごとく聞こえていました。その後、VK8と西日本の多くのハムがQSOをし、VK8のアクティビティーも下がったため、毎晩144.1MHzのCWでビーコンを出していました。もちろんTEPの可能性のあるときだけです。

それからは、VK8GBが挨拶代わりにコールしてくれて、何度もレポート交換をしていました。あの当時の設備は、私がTS-700の10Wに18m高の10エレ×2、コンディションの良い日には、手持ちのホイップでVK8GBと交信もできていました。

VKとのTEPによる交信には、さまざまな条件が必要です。黒点は100以上が欲しいところです。地域的には磁気赤道を挟んだ同距離、同緯度が理

注1) <http://www.vhfdx.net/tep.html>

お詫びと訂正

先月号の本欄で、レポートをお書きいただいた方のコールサインとお名前が欠落しておりました。お詫びして、訂正追加させていただきます。

●「144MHzでARDFを楽しみませんか」…JA1ANF 小森田 克比呂さん (編集部)

想です。時期的には2~5月、9~10月、コンディションのFBな年は2~10月までに広がります。月の新月、満月をはさんだ数日間は明らかにオープンしやすい、または信号強度が強いことが認められました。時間的には1850~2230、ベスト・タイムは2030~2130の約1時間ほどだと思います。

オープンには、以下のような3パターンがあります。VK8VFの当時52.2MHzの入感状況から、95%以上の確率で144MHzの入感が予想できました。信号を聞いただけで、TEPの信号とわかるのも特徴です。とにかくフラッターが多いコンディションのFBなとき(MUFが上昇し、高いとき)、SSBでRSが59+であるのにも関わらず、内容が理解できないほどのフラッターを経験しました。

① 1900早めのオープンは、急激にコンディションが上昇しフラッターが非常に多い。MUFが異常に上昇。しかし、コンディションは長続きしない。このオープンは、フラッターが多い場合には、緯度のずれが大きくなるようです。私はVK6GUと交信に成功しました。

② ピークが2000頃から2030頃にあり、いったん2100過ぎには信号が下がるが、2200前には信号が強くなる。

③ 2130頃からは、信号は強力ではないものの安定して入感する、フラッターは少ない。

今後は相手とコンディション次第で、144MHzだけでなく、430MHzでもTEPによる通信ができると思います。 de JH4JPO 松本 幸則

144MHzマン紹介

今回は、画像通信にアクティブな、京都市在住のJH3ECA 中島さんです。中島さんのWebページ(<http://www.eonet.ne.jp/~jh3eca>)を見ていただき、愛好者が増えて欲しいと思います。最近のSSTVもデジタル化し、画像加工も楽になっているようです。144MHzでは時間にもよりますが、QRMも少なくFBに楽しめるので、ぜひトライしてみてください。 de JR3PIO 「144MHzのQSOのうち、98%は画像通信による運用です。局数は少ないのですが、毎晩、画像の交換を楽しんでいます。周波数は144.450MHz付近です。

また文字通信も同様です。不定期ですが文字、画像通信のソフトを使って2~3日の間隔で、144.440MHz付近で2200(JST)から運用を行っています。地味ですが、こんな144MHzのハム・ライフを楽しんでいます。

JH3ECA 中島

144MHz

JR3PIO 関森 源治 Genji Sekimori

JJ2ONH 加納さんからのレポートです。JJ0ANT 田尻さんが4月中旬、鹿児島の新市サービスをするのに合わせ、ご自身も移動運用されました。VHF移動運用の楽しさが書かれています。

4月21日(金) JJ0ANT：南さつま市を追う

平日のため仕事もそこそこにして、雨の中車に機材を積み込み、ローカル局と急ぎ不破郡関ヶ原町のポイントへ。到着後15分でセッティング完了。すでにスケジュール開始時間の1800が過ぎ、慌てて144.155MHzに周波数を合わせると3エリア、4エリア各局が必死にコール中だ。レポートはあまり良くなさそう。アンテナを振って鹿児島移動の田尻さんの声が聞こえないか探るが、今一つ。風が強いためアンテナが定まらないのも原因のようだ。そうこうしているうちに、信号が浮いてきた。1902、RS51-51でQSO。その後、同行した各局も無事にQSO。天候が悪かったので、早々に撤収し下山した。この日は夜に入りFAIが開いたようで、鹿児島と1エリア間のパスもあっ

CW技術向上の試みを144MHzで

国際的にCW実技試験の是非が検討され、わが国でも実技の度合いが減ってきています。唯一CWを実用とするHAMは貴重な存在です。高齢化の進むHAMにとって、CWは頭脳、手先のトレーニングに絶好でしょう。JA7SSB 齋藤さんによる、長年のCW普及活動は立派であると思います。

福島で10年間続いているCW練習会

1996年より現在まで週3回、月、水、金の夜9時より30分間、英文符号、和英平文を50~70字/分のスピードで、145.62MHz F2Aにより送出して受信をする、CW練習会を続けています。時間がくると妨害もなくスムーズです。GPと144MHz FMハンディ機という簡単な設備を想定して、F2Aで符号送出します。速度はパソコン側で調整しています。

結果は4級→2級が13人、1級が8局に増えました。応用実技編としては、JA7ZBF/7でコンテストに参加し、3年連続で優勝をしました。野外キャンプで、仲間意識を強固にでき有意義でした。

メンバー5人が144.100MHz付近でQRV中とのことで、ワッチしてください。皆さんもこんな活動してみたいいかがですか。 de JA7SSB 齋藤 醇爾

南さつま市から、新市サービスを行ったJJ0ANT 田尻さん



たようだ。

4月22日(土) JJ0ANT：いちき串木野市を追う

車には機材がそのまま、ローカル各局と早めに山へ上がろうという話になり、午前中に前日と同じポイントへ向かう。例のごとく15分足らずで設営を完了し、まずは腹ごしらえ。風もなく穏やか、気温もそこそこ上がり、コンディションも期待できそう。さっそく予定の周波数を聞くとJQ6INQ 小園さんの声が聞こえる。田尻さんと合流した模様。コンディションは予想どおりまずまず。土曜日だけに3、4、5エリアからのパイル・アップを浴びている。そんな中、こちらも何度かコール、QSBはあるものの1538、RS53-51のレポートでQSO成立。この日は時間があるので、あらかじめスケジュールをお願いしていた佐賀県神埼市のJE6NFU 荒木さんと、長崎県南島原市のJP6VPL 本多さんともQSOに成功。その後も田尻さんグループの信号は落ちることなく、ピークRS59+で来ていた。この日は、翌日の田尻さんによる志布志市移動に備え、そのまま車中泊。

4月23日(日) JJ0ANT：志布志市を追う

早朝の天候は曇り。この日で田尻さんの遠征も最終日。さっそく発電機を始動しワッチ態勢に。早い時間にも関わらず、田尻さんの元気な声が聞こえる。ロケーションも良くRS59-59で難なくQSO。

今回の総括としては、時期的に少し早かったせいか、QSBが非常に激しく、落ち込むと了解度ゼロのコンディションの日もあったが、何とかQSOができて一安心。また、長野県からはるばる鹿児島まで遠征移動してサービスしていただいた田尻さんに、敬意を表したいと思います。

144MHz

JR3PIO 関森 源治 Genji Sekimori

Eスポと水平偏波、垂直偏波のこと

1993年の夏、144MHz SSBで北海道がオープンしたときのことである。私はそのとき、垂直偏波の12×2エレメント八木を使っていたが、ノイズが多くプリアンプを切っても耳障りな状況であった。そこで、アンテナを水平偏波の12×2エレメント八木(写真1)に切り替えた。すると、ノイズが極端に減り、信号が浮かび上がってくる。

コンディションがあがり、8エリアのモービル局の信号がだんだんと強くなる。このときアンテナは、大阪・和泉市の自宅から見て南東方向の八丈島方向を向いていたのだ。さっそく、水平偏波の八木アンテナを使ってブレークをかけ、それへの応答があり8エリア局との交信ができた。

その後、アンテナを8エリア方向の15階建て高層住宅に向けるが、垂直偏波のアンテナではノイズのみが受かる。そのうちに8エリアからの信号が強くなり、しばらくするとローカル局が8エリアをコールする声が聞こえてきた。GPでも交信が可能くらいコンディションが上がってくると、水平偏波も垂直偏波も変わりなくなると言いたいところだが、なぜかこのときは水平偏波が劣勢になった。

ところが、その日の8エリアのオープン末期のころに一変した。コンディションが落ちて、垂直偏波の八木アンテナでは信号が途切れるようにな

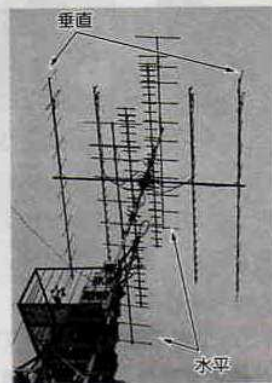
定年を機に始めた移動運用

2003年6月に定年退職し、故郷である関西に戻りました。「さあこれから思う存分ハム・ライフを楽しむぞ!」と思ったのですが、住宅が狭いので移動運用を始めました。当初は移動運用は若い人のするものという考えがあったのですが、中古車を買ってリグを積んで運用を始めたところ、すっかり移動運用の面白さにはまりました。

144MHzにもアクティブに出ています。聞こえていましたら、ぜひ呼んでください。

de JA3FNO 吉岡 喬

写真1 JH3CVL 三津井さんの垂直、水平の144MHzアンテナ・システム



っても、水平偏波に戻すと相変わらずRS59で強く入感する。出力を下げて同じレポートが返ってくる。垂直ビッグ・アンテナを上げる、3エリアの局がほとんど取れないという状況下である。

このときは、私のアンテナはタワーが最低の13m高で、タワーの昇降具合によって、レポートがどの程度変わるのかを実験することができず、少し残念だった。 de JH3CVL 三津井 博次

コラム筆者より：この水平と垂直偏波の話題については、以前より議論されています。筆者も、マンション屋上に11×2エレメントの水平八木と、9×4×2エレメントの垂直八木を35m高に設置して実験をしました。

水平偏波系の多エレメント八木アンテナは、その構造上、架設がしにくいこと、垂直系と比べてテレビ障害が発生しやすいこと、また相手局が少ないなどの理由からその後、下ろしてしまいましたが……。筆者が体験した範囲では、水平偏波は、その長く深いQSBが印象に残っています。

JH3CVL 三津井さんによるこのレポートでは、ご自宅から南東にある和泉葛城山反射の可能性もあります。また、この方向ではFAIによる交信だった可能性もあり、マルチ・ホップが発生し伝搬していたのかもしれませんが。

Eスポ反射や散乱によって届く電波は、円偏波の状態とも言われ、偏波が水平、垂直に関係なく強烈に反射、伝搬します。皆さんも一度、偏波の違いによる運用の差を試してみませんか？

de JR3PIO 関森

144MHz

JR3PIO 関森 源治 Genji Sekimori

JA3AA 144MHz SSBへの想いを語る

私は開局以来、もっぱら電信による運用を続けてきましたが、唯一の例外的なものは144MHz SSBによる運用でした。144MHz SSBに興味をもったのは、相当古い時期からだったと思います。

その理由の一つは、技術的興味にありました。短波帯の電話はSSB化がなされましたが、VHF帯のSSBというのは周波数の安定度が確保できるのか？ VFOの使用は可能なのか？ このことに興味がありました。

もう一つは本欄担当のJR3PIO関森さんが当時は毎朝、定期的にJA1エリアとQSOされており、144MHzというVHF帯での長距離交信がほとんど毎日可能というのも驚きの一つでした。

144MHz SSBに関しては、ほとんど各県に2メーターマンのクラブが存在し、横の連絡も良く移動情報が的確に入手でき、また各地でのミーティングで多くの愛好者とお会いし、このバンドの面白さにはまり込みました。

1978年に京都国際会館でCCIR(国際無線通信諮問委員会)の総会が開催され、各国の専門家が参集されました。このとき開設した8J3ITUの無線設備を見学に来た、当時のIFRB(国際周波数登

録委員会)ソートン議長は、144MHz SSBと表示された無線機を見て、「これは144MHz FMの間違いではないか」と聞かれました。日本では、144MHzだけでなく430MHz、1200MHzでもSSBが実用化されているのです、と返事すると「うむー」と唸っていました。

このように、国際機関の専門家でもVHFのSSB利用に疑念を持たれていた時代から実用化を推進されたアマチュア無線機器メーカー、並びに先鞭をつけ開拓されたアマチュア各局には、敬意を表する次第です。

V/UHFのSSBを実用化しているのはアマチュア無線だけであり、そのルーツとなる144MHz SSBは、間違いなく日本の文化と言えるものです。

de JA3AA 島伊三治

筆者より：鳥さんと筆者との144MHzでの出会いは30年間にわたり古く、日本のハムの第一人者の鳥さんが144MHz SSBをこよなく愛し運用されているのは、われわれにとっては心強いかぎりです。

鳥さんは口癖のように“できるだけ電波を出そう”と言われていました。有限の資源である周波数を空けておいてはいけないと問題提起をされています。

われわれ144MHz愛好家はもちろんのこと、これから入門される方にも144MHzの運用をお勧めして、アマチュア無線の活性化を計ろうではありませんか。

de JR3PIO 関森源治

144MHzアクティブ局の紹介

● JM1XLF 谷口さん (東京)

144MHzを25年間ほとんど毎日運用しています。リグは開局時のトリオをはじめ、ヤエス、アイコムと各社の製品を使いましたが、機能一つをとってもそれぞれの違いがありますし、「あれは、いいけど、ここがねえ」なんていう言葉はよく聞きます。昨今のメーカーに言いたいのは、メンテナンスの対応期間が非常に短いのでは、ということですが。

当局の設備は特記するほどのことはなく、海拔30mのマンションに囲まれた場所で屋根にタワーを建てそこに15×2×2八木を架設しています。144MHzに限りませんが、① ロケーション ② 設備 ③ 相性、残るはワッチ、ワッチだと思えます。

東京都内での移動運用は、郊外の宅地化が進み非常に難しくなりました。たとえば、公立学校の屋上を簡単な届け出で使用許可が下るとかできれば、ありがたいのですがねえ。モバイル、移動もガソリンの高騰でままなりません。ロケーションの良い場所に行くとい声を出したくなりますが、これもハムの性でしょうか。

平成の大合併ではJCC、JCGもドカッと増え、われわれハムには良きプレゼントになりました。この機会にJCC800を目ざしてノンビリと楽しもうと思っています。当地より常時QSO可能の距離は相手方にもよりますが、400kmほどだと思えます。今までの体験で記憶にあるのはVU10000局を目ざして、CQ CQに明け暮れた頃にQSOしていただいた各局のことです。

144MHz

JR3PIO 関森 源治 Genji Sekimari

最近では、都会よりもむしろ地方で増加している観のあるアママン・ハム。何かと制限の多い運用スタイルを強いられがちですが、ぜひ諦めずにがんばっていただきたいと思います。

今回ご紹介する高木さんは、そういった意味で、お手本のような局です。

GP+50Wの運用スタイルにこだわる

アママン・ハムである私の設備は、トランシーバがIC-7400(50W)、アンテナがGP(グラウンド・プレーン)です。もちろん、144MHzが私のメイン・バンドです。

この小規模な設備でJCCは500市、WAJAは岩手県を残すだけのところまでくることができました。北海道は13市12郡とQSOしています。ロシアもサハリン、ハバロフスク、ウラジオストックの3地区とQSOしました。

なぜGP+50Wという運用スタイルにこだわるのか？ それはたぶん、いまある設備を徹底的に使いこなしたいということがあるように思います。

私が日ごろの運用で、注意していることを紹介します。

① 許可された電力を効率良くアンテナから出す

アンテナの利得やSWRだけがすべてではないはず。いわゆる「吸い込み」を良くすると、送受信ともに見違えるようになります。与えられ

た設備を最大限に生かすこと、この点で144MHzでの50Wは私にとって十分な電力です。

② 最良のタイミングを計る

特に遠距離を狙う場合、単一型のアンテナではQSBがあるので、信号強度が上がるタイミングを待って相手局をコールして、手早くレポート交換を終了します。名前やQSLカードの交換などは、交信要件を満たしたあとにゆっくりと行います。

③ 辛抱がなければ

Webクラスターなどの情報を利用し、例えば弱い信号であっても入感していれば、しばらく辛抱して聞いてみることも大事だと思います。案外、500km超の信号であっても、聞こえてくることがあります。その周波数を一瞬だけ聞いて、これは無理だと判断するのは早計に過ぎます。

④ 設備のメンテナンスはこまめにしたい

特に同軸ケーブルは見た目には問題がなくても、紫外線の影響を受けて劣化が進んでいるものです。外装が黒色のタイプでも5年、灰色や白の同軸ケーブルは2年程度が交換の目安でしょう。同軸ケーブルは小まめに交換しましょう。

数百万円のタワー+ビッグ・アンテナの局が苦しいQSOしているのを、ローカル局から使い物にならないと譲ってもらったGPを使って取れるわけがないのです。駄目なものは諦める、このほうが精神衛生上、よろしいです。そのうちWAJAの残り、岩手の局がRS59で入感してくるときがくるでしょう。

de JH3KHS 高木 健治 (大阪市住吉区)

2m DXレポート

2006年6月6日0301(UTC)、中国中部・河南省のBD6JN局と145.00MHz FMで、QSOに成功しました。互いの設備についてですが、BD6JN側はTM-271+9エレ八木に30W、私はTS-2000+自作9×2ツイン・デルタループ(13m高)、50Wでした。

de JH6DVD 渡辺 信行



TO RADIO: JH6DVD Confirming our QSO on 145.00 MHz
Date: 06 JUN 06 UTC: 02:01 Mode: FM RX: 29
My Rig: TM-271 Ant: 9 x 2 Delta Loop 30 W

Thank you very much for the QSO! 73! OP: SUN 砂原 忠

ADDR: P.O. BOX 4 XINYANG-CITY HENAN 464000 P.R.CHINA YOUR QSL
中国 河南省信阳市 邮编: 464000 PS2 DR1

144MHz

JR3PIO 関森 源治 Genji Sekimori

メーリング・リスト「PC-HAM」の紹介と、JCC/JCGアンケートについて

「PC-HAM」とはインターネットのメーリング・リストのグループ(図1)です。立ち上げられたのは1996年で、インターネットを利用するハムが増えてきたのがきっかけです。しかし、その当時のアマチュア無線家のパソコンの利用形態は、ハムログと年賀状作成程度の方が多かったようで、十分に活かされていませんでした。

そこで、パソコンとインターネットを活用するアマチュア無線家同士を結ぶ、情報交換の場ができないかということで、この「PC-HAM」が立ち上がりました。当初は知り合いのハムを中心にPRしたため、144MHzのSSB'erが中心に集まりました。そこでは、近況報告やご当地ネタ、パソコンの相談ごとなどを扱う談話室的な雰囲気がありました。

少なかった参加者の数も増えて、共通の興味を中心とする144MHz SSBの移動運用情報や、異常伝搬のレポートといった情報が多く集まるようになりました。そのうち、そういう情報のやりとりが中心となり、現在、全国48都道府県から、700名弱のユーザーが参加するメーリング・リストにまで成長しました。

今日では、144MHz帯もリアルタイムのWebクラスターを利用することで、コンディション把握やQRV情報の取得は簡単にできますが、メーリング・リストは事前の移動告知などを行うことに

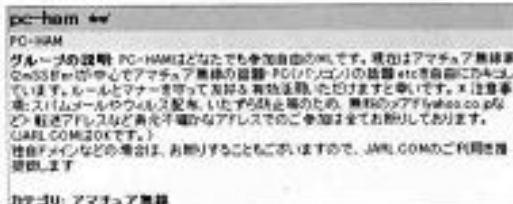


図1 Web上の「PC-HAM」の紹介ページ

よって、有効なPRのためのツールになっています。また、チャット機能や投票機能、さらにはアルバム機能も備えているので、参加者の皆さんに上手に活用いただきたいと思います。

その一例として、表1にこのメーリング・リストを活用してデータ集計を行ったJCC/JCGのコンファーム進捗状況のようすを示します。

今後、参加される方が増えて、またサポートをさせていただける方が増えていくのであれば、バンド活性化のために、コンテストやオフライン・ミーティングなどを企画、主催することができればと考えています。

なお、このメーリング・リストへの参加、登録の詳細については、以下のアドレスをご覧ください。

<http://groups.yahoo.co.jp/group/pc-ham/>
de「PC-HAM」管理人グループ

* * *

昔からアマチュア無線家の間で言われてきた「…ワッチに始まりワッチに終わる」との、この言葉の真意を理解しつつも、柔軟な感覚を持って、有効にITを活用するのが、最近のアマチュア無線家の姿だと思います。このメーリング・リストを活用して、144MHzでの遠距離通信や愛好者間の交流に活用されてははいかがでしょうか。

de JR3PIO 関森

表1
「PC-HAM」アンケートによる
JCC/JCG進捗状況

	100	200	300	400	500	600	700	750	800	回答数
JCC	3	2	3	1	7	25	24	17	6	88
JCG	3	3	6	37	33	-	-	-	-	82

注意：アンケート機能による集計結果、アワード取得状況ではなく、8月末時点でのQSLカードのコンファーム(cfm)進捗状況を表す。

平成の大合併で、新市が誕生し移動サービスを各局

が積極的に行ったことで、JCCは回答者の半数以上がJCC700以上という高い数字を得ていることが見てとれる。一方、合併・消滅により、JCG500は半数以下であり、逆に難易度が高まってきているようである。

144MHz

JR3PIO 関森 源治 Genji Sekimura

台風シーズンは過ぎ去りつつあるとは言うものの、最近の台風は風力が非常に強いものが多く、受風面積の多い大規模なアンテナにとっては、まさに脅威です。エレメントが折れて飛ぶことになると、凶器になるのです。 de JR3PIO

自分は大丈夫だろうと思っていませんか？

JEANFP 松田 肇

台風などの災害により、アンテナ・マストが曲がってしまった。あるいはタワーの倒壊といった経験をお持ちの方も、本誌の読者の中にはおられると思います。実は、私も2004年の台風23号の猛威にやられ、常置場所（自宅）のアンテナ・タワーが、地上高約10m付近からほぼ直角に折れてしまった経験を持っています。

その日、台風は高知県沖の太平洋を北東方向に非常にゆっくりとした速度で移動していました。岡山からだつ四国山脈が間に入り少々離れているのですが、朝から強風が吹き午後にはもの凄い暴風になっていました。

夕方、会社で仕事をしている私の携帯電話に、妻から「タワー倒壊！」の一方が届き、急いで帰宅してみると、なんと我が家の車庫の屋根の上から隣の家にかけてタワーが倒れ、電話、ケーブル・テレビ、商用電気の電線がぶら下がっているのを目のあたりにして愕然としました（写真1）。すぐさま隣家へ行き、状況の説明、確認と謝罪をしました。「停電しているけれど生活に支障はないから、あなたのほうを先に片付けて」という隣

人からのありがたい言葉、日頃からの近所づきあいの大切さを痛感した瞬間でした。

事故が起こる前には「老朽化してきたので支線を張ったほうがいいな」と思っていたのですが、それまで約20年間は何事もなかったという経験から、急ぐ必要なしと油断をしてしまったのです。

幸いにも、隣家では瓦が4-5枚割れたほどで、大事には至りませんでした（写真2）。またケーブル・テレビ会社などから、数十万円の費用請求を覚悟していたのですが、不幸中の幸いで何もなく、ほっと胸を撫でおろしたものです。

数日後、復旧作業のために来た電力会社の人から話を聞くと「何日もまともに寝ていないんです」と疲れ果てたようす。大規模で、多くの地域で被害が出ていたことがうかがわれました。

いずれにしても、台風シーズンはまた来年もやってきます。今まで何事もなかったから大丈夫！などと考えていると、後悔することになるかもしれません。自分だけで済むのならまだいいのですが、ご近所や周囲の方々に多大な迷惑を掛けることになりますし、それこそ人身事故にまでなったらと想像すると、恐怖すら感じます。

144MHz帯はもとより、アマチュア無線そのものを永く楽しむためにも、台風が来る前に今一度アンテナ周りを点検してみたいかがでしょう。

ちなみにご迷惑をかけた隣家の方からは「次はどんなアンテナを建てるの？ 遠慮なくていいよ」と言われていますが、やはりご迷惑をお掛けしてしまった以上、しばらく常置場所からの運用を控えて、スタミナを蓄えたあとで再始動しようと思っています。それまでは友人との移動運用を楽しもうと思っています。しかし、それにしても災害は忘れた頃にやってくる……ものですね。



写真1 タワーが折れ曲がり、架線を切って隣家へ接触していた



写真2 筆者宅側から、隣家を見たところ。瓦を数枚割っただけで済んだのは、不幸中の幸いと喜ぶ様子。

